

## 「未来への投資」

学びを「未来への投資」だとする考え方がある。おそらく、世界のほとんどで肯定される発想である。政治の世界でこの言葉を使うとき、それは「教育費」「科学技術費」の話になる。子どもたちの教育や科学の発展のための予算を確保することが、日本人の将来を明るくすることにつながる。これは、現実的には限界があるとしても、極めて有効な投資であると感じる。経済界ではもっと幅広に、「人類の」未来への投資という意味合いになる。AIをはじめとした ICT 技術の研究開発に力を注げば、人類の未来への展望が開ける。AI の発達によって人は職業を奪われるという予測や AI が自意識をもって人類を凌駕する、いわゆるシンギュラリティの到来は、前から話題となってドラマや映画でも取り扱われていて大変興味深い、わからないことが多い。むしろ、ICT 技術の進歩のおかげで、新型コロナウイルス感染症の中、オンライン会議等を活用して人間の様々な活動が継続されていることに、投資の成果を感じる。

ところで、私たち高校生が当面考えなければならないのは、「自分の」未来への投資である。それは経済的なことよりも、自分自身の行動についてよく語られる。毎日の学習に取り組む時間や密度をいかに確保して、将来の自分を育てるか、という観点。ぼんやりとマンガを読んだり、SNS を眺めたり、あるいは没頭したりする時間や体力や知力を、学習に効率的に注ぎ込むように自分自身を誘導すべきだという戒め。もちろん効率的な休憩の取り方、気分転換の価値も含めた自己検証である。その実現のためには、学習に臨む態度や姿勢、あるいは誘惑に負けない意志の強さ、目的意識の明確さ、それを支える体力や気力、何よりも大局観（大きなビジョン）が必要だと考える。

逆に捨て去るべきは、特に努力をしなくても知らない間に自分の頭脳が昨日とは桁違いに優秀なものに変化する奇跡を信じる妄想、さすがにそこまでではなくても、松山東高校に通っていれば、何とかするという根拠のない迷信、自分の将来を具体的にシミュレーションすることを避ける怠惰な心、であろうか。

いわゆる「やる気」の問題といえる。「やる気」が出ない。やっちはいるけれども物足りない。集中できない。そんな不安を軽減し、払拭するために、人は「やる気」の出るポイントを探す。要は気持ちの問題であるが、その気持ちをどう揺り起こすか、は実は大きな課題である。

1つの方法として、座右の銘。先人の含蓄のある名言を胸に刻んで、「やる気」アクセルを踏むこと。成功を収めた先人から学ぶのである。無数にある中で、有名などころでは、スティーブ・ジョブズ氏の“Stay Hungry. Stay Foolish.”。解釈はいくつもあるだろうが、食欲であることと、周囲に鈍感になり（多少常識から外れていても、周囲の瑣事に構えとられずに）自分自身の道を行くことだと私は捉え、より“Foolish”であろうと努めている。

他にも心に留まった、出所不詳の「勉強」に関する言葉をいくつか。

“Better do it today than tomorrow.”（明日やるよりは、今日やるほうが何倍も良い。）

“The pain of study is temporary; the pain of not study is lifelong.”

（勉強の苦しみは今だけだが、勉強しなかったために受ける苦しみは一生続く。）

“You never lack time to study; you just lack the efforts.”

（勉強に足りないのは、時間ではなく、努力だ。）

いずれも、学生や受験生が自分を鼓舞するために書き記した言葉のように感じる。

それともう一つ、「やる気」アクセルを踏むためには、自分の進むべきロードマップが見えていること。闇雲にエンジンを噴かしても、不安になる。道が決まっても、整備されているとは限らないので、体力・気力・知力に加えて注意力も必要。何よりあってほしいのは、ナビゲーション。

そのロードマップを描く道案内として、また、あなたの「やる気」アクセルを踏む原動力ともなる先輩方のアドバイスブックとして、この「進路の手引」を活用していただきたい。あなたの「未来への投資」を支えるものとして。